

2020年度 国際ユース作文コンテスト受賞者

テーマ：「2030年の私からの手紙」

参加国数：166カ国

応募総数：合計 33,632 作品（子どもの部 9,578 作品、若者の部 24,054 作品）

※学校名、年齢等の受賞者情報は、募集締切日（2020年6月15日）時点のもの

文部科学大臣賞（最優秀賞）（各1点）

<子どもの部>

- 「君の未来は今日から始まる」
ダッドリー・コジタ・セナナヤカ
（スリランカ）12歳

<若者の部>

- 「希望のブーメラン」
マルタ・アンドゥリイブナ・
チエルニチュカ（ウクライナ）18歳

優秀賞（各2点）

<子どもの部>

- 「未来への賢い案内人」
プレイズ・ムメソマチュクウ・
チュクメレゼ（ナイジェリア）12歳
- 「傾いた天秤」
田野井 羚歌（東京都）13歳

<若者の部>

- 「映画で目にしたように」
ジュリア・ペイショット・フェルナンデス
（ブラジル）17歳
- 「輝きのるつぼ」
曽根 優花（東京都）17歳

入選（各5点）

<子どもの部>

- 「2030年の私からの手紙」
タリーゼ・チャン・ルオ・イー
（シンガポール）9歳
- 「苦難の中の輝き」
ダニエラ・オドン・アジアナット
（ウガンダ）13歳
- 「一つ一つ」
ジュリアンヌ・フランセスカ・バース
（フィリピン）13歳
- 「あきらめないで。2020年の私」
尾崎 惺（東京都）13歳

<若者の部>

- 「テクノロジーとエコロジー
— 平等主義者の視点から」
アディア・カプール（インド）15歳
- 「World on the RICE!」
島田 明日美（埼玉県）17歳
- 「自然に帰ろう」
ジョウ・シャンフェイ（中国）19歳
- 「どうか、自殺しないで」
ムピハリー・マヘファ・ラザフィンドラベ
ザンドリナ（マダガスカル）20歳

- 「あの日の私へ。」
清水 楓乃（東京都）15 歳
- 「波及効果」
クリシャ・キング・リム（フィリピン）
23 歳

佳作（各 25 点）

<子どもの部>

- アールビ・マリック（インド）9 歳
- アラピンド・アナンダラジ（マレーシア）
11 歳
- エリーゼ・Ｙ・チェン（米国）11 歳
- エネハ・マリノバ（ブルガリア）11 歳
- 近藤 恵一（神奈川県）11 歳
- 高本 明子（東京都）12 歳
- アンヘラ・マティルデ・キンテロ・
ゴンサレス（コロンビア）12 歳
- 山本 皓正（大阪府）12 歳
- モハメッド・タハ・サマオウアル（モロッコ）
12 歳
- アレックス・ヘイヨン・ジュン（韓国）13 歳
- イシャ・シン（インド）13 歳
- オパラ・チオマ・ステラ（ナイジェリア）
13 歳
- 宮本 理子（東京都）13 歳
- シャシャンク・クマール
（米国<インド在住>）13 歳
- タイヤッバ・ノア（パキスタン
<アラブ首長国連邦在住>）13 歳
- 小田 綺乃（長野県）14 歳
- クリステアーナ・ガラティエヌ
（ルーマニア）14 歳
- 古谷 元（茨城県）14 歳
- M・ナイーム・ハシーフ・ビン・モード・
ナシル（マレーシア）14 歳
- プラティブハ・シュリバトサン（インド）
14 歳

<若者の部>

- マーレット・ビズネー・ベケレ（エチオピア）
15 歳
- 中山 美空（長野県）15 歳
- アンナ・ラケル・クリンガー（米国）16 歳
- ジーナ・ユム（米国）16 歳
- マルコ・エラーノ・アルマリネス・
ドゥマーレ（フィリピン）16 歳
- 鹿毛 瑞希（東京都）16 歳
- ティアニューエ・ルビー・サン
（フィンランド<カナダ在住>）16 歳
- ウルテ・ゲドビライテ（リトアニア）16 歳
- 伊藤 菜月（千葉県）17 歳
- ジービカ・ワドゥワ（インド）18 歳
- バシャンゲジ・プリンス・ビショゴ
（コンゴ民主共和国<ジンバブエ在住>）
19 歳
- ディアナ・レオンチェブナ・リトビノビッチ
（ベラルーシ）19 歳
- サラ・イルディナ・ビンティ・サラディン
（マレーシア）19 歳
- アマン・マジウムダール（カナダ
<東京都在住>）20 歳
- パウラ・ベントウーラ・バロツソ（スペイン）
20 歳
- 平田 創一郎（愛知県）20 歳
- ディエゴ・イラム・ロドリゲス・ゴンサレス
（メキシコ）21 歳
- ジズラン・エルギル（モロッコ）21 歳

- 田中 尊 (埼玉県) 14 歳
- 野中 優那 (日本<ミャンマー在住>) 14 歳
- 野口 恵衣 (静岡県) 15 歳
- 陶山 智太郎 (福岡県) 15 歳
- 武藤 佑奈 (東京都) 15 歳
- フォラジヨミ・イサ・アヨミデ (ナイジェリア) 22 歳
- ジェアニー・ジェン (米国) 22 歳
- ナント・アイエ・ブウイント (ミャンマー) 22 歳
- アントニオ・フェラーラ (イタリア) 23 歳
- ジェンナ・ホール (英国<トルコ在住>) 23 歳
- デイブ・タンパス・プレゴウナー (フィリピン) 24 歳
- ブルバ・アガルワル (インド<英国在住>) 24 歳

学校特別賞 (2 校)

- 晃華学園中学校高等学校 (東京都)
- 東京学芸大学附属世田谷中学校 (東京都)

学校奨励賞 (59 校)

- アキリ・ダダ (ケニア・ナイロビ市)
- アサンブション国際中学校 (大阪府)
- 板橋区立緑小学校 (東京都)
- 稲城市立稲城第六中学校 (東京都)
- インデペンデント中等教育学校 (セーシェル・ビクトリア市)
- 大阪教育大学附属池田中学校 (大阪府)
- 大妻嵐山中学高等学校 (埼玉県)
- 大牟田市立大正小学校 (福岡県)
- 岡山県立矢掛高等学校 (岡山県)
- 科学・芸術国際総合学校 (パキスタン・パンジャブ地方)
- 鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校 (鹿児島県)
- 吉華国民型華文中学 (マレーシア・ケダ州)
- ギヤサディン・インターナショナル・スクール (モルディブ・マレ市)
- 京都学園中学高等学校 (京都府)
- 居林覚民中学 (マレーシア・ケダ州)
- グアダラハラ大学附属エル・サルト地域高等学校 (メキシコ・ハリスコ州)
- グアダラハラ大学附属第 8 高等学校 (メキシコ・ハリスコ州)

- 公民国民型華文小学（マレーシア・ペナン州）
- コンテンポラリー・サイエンス・アナトリア科学高等学校（トルコ・マルマリス市）
- サトリウィタヤ学校（タイ・バンコク都）
- シカゴ双葉会日本語学校補習校（米国イリノイ州）
- シドニー日本語土曜学校（オーストラリア・ニューサウスウェールズ州）
- 常総学院中学校（茨城県）
- 城南学園中学校・高等学校（大阪府）
- 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校（東京都）
- ジョジナ第6中学校（ベラルーシ・ジョジナ市）
- 第12学校（ベラルーシ・ミンスク市）
- 第7コペルニク高等学校（ポーランド・シロンスク県）
- 第234バチリエラト技術産業サービスセンター（メキシコ・タマウリパス州）
- 中部テネシー日本語補習校（米国テネシー州）
- ティーチャー・スー・センター（ミャンマー・ネピドー市）
- 東京都立小石川中等教育学校（東京都）
- 長野県中野西高等学校（長野県）
- 名古屋産業大学（愛知県）
- 新潟青陵高等学校（新潟県）
- 日本福祉大学附属高等学校（愛知県）
- ヌエバ・レオン州自治大学附属第23高等学校（メキシコ・ヌエボ・レオン州）
- 延岡工業高等学校（宮崎県）
- 半田市立乙川中学校（愛知県）
- 福岡県立小郡高等学校（福岡県）
- 不二聖心女子学院（静岡県）
- 文化学園長野中学・高等学校（長野県）
- 平安女学院中学・高等学校（京都府）
- 本庄東高等学校・附属中学校（埼玉県）
- フィリピン科学高等学校セントラル・ルソン校（フィリピン・パンパンガ州）
- ブレスト第1学校（ベラルーシ・ブレスト市）
- マタイアス・ハマー高等学校アニナ校（ルーマニア・カラシュ=セベリン県）
- 松本秀峰中等教育学校（長野県）
- 三島学園知徳高等学校（静岡県）
- ミラノインターナショナルスクール（イタリア・ミラノ県）
- 武庫川女子大学附属中学校・高等学校（兵庫県）
- ムンド・デ・アレグリア学校（静岡県）

- メハラ小学校（ボスニア・ヘルツェゴビナ・ウナ＝サナ県）
- 八千代松陰中学校（千葉県）
- 山ノ内町立山ノ内中学校（長野県）
- ラオ＝アメリカン大学（ラオス・ビエンチャン市）
- ランプル・カデット大学（バングラデシュ・ランプル市）
- 立教英国学院（英国ウェスト・サセックス州）
- ロザリオ・シスター・スクール／マルジュアルハمام校（ヨルダン・アンマン市）

国際ユース作文コンテスト選考委員（＊敬称略・50音順）

委員長	千 玄 室	茶道裏千家前家元、ユネスコ親善大使
	西園寺昌美	公益財団法人 五井平和財団会長
	都倉 俊一	作曲家、一般社団法人 日本音楽著作権協会特別顧問
	成田 純治	株式会社博報堂相談役
	服部 真二	セイコーホールディングス株式会社代表取締役会長兼グループ CEO 兼グループCCO
	松浦晃一郎	一般社団法人 アフリカ協会会長、元ユネスコ事務局長
	美内すずえ	漫画家
	矢崎 和彦	株式会社フェリシモ代表取締役社長
	葉 祥 明	絵本作家
主 催	公益財団法人 五井平和財団	
後 援	文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、日本私立中学高等学校連合会、 東京都教育委員会、NHK 日本経済新聞社	
協 賛	セイコーホールディングス株式会社、プラス株式会社	

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 文部科学大臣賞（最優秀賞）

君の未来は今日から始まる

（原文は英語）

ダッドリー・コジタ・セナナヤカ（12 歳）

スリランカ・コロンボ県

S. トーマス・カレッジ・マウント・ラビニア校

2020 年のコジへ

僕から手紙が来るなんて君は夢にも思わなかつただろう。でも、君の未来は今の僕の現実だから、僕は君に向けて書いている。

覚えているかい？ 10 年後には人々が火星に住んでいて、クリスマスにはどの子もロケットベルトをサンタクロースにお願いするようになる。君が予想していたことを。残念だけど、どちらもまだ実現していない。

でも、この数年で多くの変化があった。僕たちが思いもしなかった変化がゆっくりと忍び寄ってきて、僕たちはそのことに気づきさえしなかつたけれど、振り返れば、僕たちの世界は大きく変化した。

昔は治らないと思われていた命にかかわる病気も、科学者たちによって、今では治せることがわかった。人工知能（AI）やロボットの助けを借りて医療が進歩し、今日では人々がその恩恵を受けている。

学校はこの 10 年間で大きく変化した。数学や英語、科学といった科目のほかに、自己認識、多様性、社会的責任がカリキュラムに取り入れられるようになった。その結果、人々は自分たちの決断を評価するために、それが「自分の利益になるか」「他人の利益になるか」「世界全体の利益になるか」という三つの基準をクリアできるかを考えるようになった。こうすることで、僕たちはこれまで以上にできる限り思いやりを持つようになった。

今の人々には笑顔があふれている。心の底から本当に幸せに見える。これを聞いて君も喜んでくれるだろうと思う。

戦争は過去のものだ。今でも意見の食い違いはあるけれど、誰もが同じだとは思わず、互いの違いを尊重することを人々は学んだ。疑いや偏見を持つのではなく、言葉を交わして互いを理解し合うようになった。こうして僕たちの社会は平和になった。

世界は今、これまでよりも環境のことを考えるようになった。「リデュース（減らす）・リユース（繰



り返し使う)・リサイクル(再資源化する)」という3Rの考え方が人々の一部となり、毎日の生活の中に取り入れられるようになった。けれど、そこで終わりではない。僕たちの世代はそれを土台にして、「リシンク(再考)・リイマジン(再発想)・リイノベイト(再発明)」というさらに進歩した3Rを取り入れ、一生懸命これに取り組んでいる。例えば、家を建てるために木を切って更地にするのではなく、木の枝の上に家が建つように上手く設計する。もちろん、どこの子どもたちもこのアイデアを喜んでいる!

ところで、君にはもっと個人的なことを伝えなければならない。10年前に君が植えたフトモモの苗木のことを覚えているかい? 毎日欠かさず水をあげていたこと、毎朝起きるとすぐに、若葉が芽を出したか急いで見に行っていたことを覚えているかい? 毎日一生懸命ものさしで測って、前の日より少しでも大きくなったか確かめていただろう? 大きくなっていると君は喜んで、そうでないと残念がっていたのを僕は覚えている。あれから10年が過ぎて君は今大学生になり、家から遠く離れた場所にいる。でも、あのフトモモの木はまだそこある。今ではずっと大きくなって頭の上に枝を広げ、甘そうな赤い実をたくさんつけている。君が進学のために家を出てから、この家は両親二人だけになった。君が家にいるときは、毎日友達とはしゃぎ回り、家に笑い声があふれていたが、それがなくなって寂しがっていた。でも今は、近所に小さな子どもたちがいて、放課後になると君の庭にやって来てはフトモモの実を取っている。君の両親の許可をもらって。この家でその子たちの笑い声が聞こえるようになり、楽しそうにワイワイしゃべる声を聞いて、両親の顔はもう一度明るくなった。

だから君もわかるように、どんな行いも、たとえどんなに小さくても、それはずっと後まで影響する。そこから恩恵が受けられることもあれば、そうでないこともあるけれど、大切なのはそんなことではない。大切なのは、とにかく僕たちが何か良いことをするということだ。

最後に君に伝えておきたい。今日の僕たちの行いは、より良い明日をつくることができる。だから、よく考えて行動しよう。君の未来は君が握っているのだから。

たくさんの愛をこめて
2030年のコジより

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 文部科学大臣賞（最優秀賞）

希望のブーメラン

（原文は英語）

マルタ・アンドウリイブナ・チェルニチュカ（18 歳）

ウクライナ・キエフ市

キエフ国立大学タラス・シェフチェンコ国際関係研究所

薄暗い部屋に一人で座っていると、自分の言葉を静寂に投げかけているように感じる。私は心に悲しみを抱えてこの文章を書きながら、あなたにとってこれを読むことはとてもつらいことだろうと想像している。きっと、この手紙は、毎朝鏡の中で出会う人とは似てもつかない、知らない人が書いたものだと、自分に一生懸命言い聞かせているに違いない。



私には分かる。何が起こっても、私たちって、ささいな問題をいつも大きなトラブルに変えてしまうタイプの間。現実のごくごく一部をフィクションと組み合わせ、それを膨らませて作った巨大なシャボン玉の中に入り、日常のあれこれから隠れてしまう。

運命は皮肉と無縁ではない。あなたは私を意識しないだろうが、私たちは毎日すれ違っている。あなたのいろいろな夢や思いの中で。もっとも、あなたが私から目をそらし、この事実を正面から見ないようにする瞬間があるけれど。

秘密を明かしてもいいかしら。幻滅することもあなたのためになると思う。私（将来のあなた）があなたの希望どおりになっているなんてありえないのだから。ごめんなさい、あなたにとっての一番低いハードルでさえ、私が飛ぶには高すぎるみたい。私は「1 位」を目指して表彰台の高い位置へとどんどん登っていきけるほど強くない。そう、私が言うのだから間違いない。レースで一番になることがそれほど重要でないと気づく瞬間を、あなたは忘れないだろう。

この手紙を読んで、疑問だらけになっていると思う。たくさんの疑問が浮かんで、もつれ合って、糸玉になる。そして私の話の中の欠落部を見つけようとするだろう。そうすれば、私の話を「信じられない」と片付けることは簡単だから。

とにかく、もしも私の言うことが、まだただの作り話に思えるなら、どうかその作り話に耳を傾けてほしい。

2030 年の世界を想像するには、自分にこう問いかければいだけ。「あなたの目にはどう見えるの？」
今この瞬間、あなたは頭の中で私にとっての現実を生み出している。あなたの世界の人々は毎日、

10年先に向かってブーメランを投げている。このブーメランは、たどるべき道筋を2030年の私たちに示し、2020年の人々が描いた将来の展望を示している。

そんなブーメラン、つまりメッセージが、私たち一人ひとりに毎分どれだけ投げかけられているか、数えきれない。いつも不確実な賭けになってしまう。私の友達は昨日、自分が過去に慈善活動をしよと決めたことに気づいた。慈善基金の主催者になりたいという希望を、すでに未来に送っていたことになる。

ここであなたは、それはちょっと安易すぎやしないかと疑いを持つだろうね。あなたの希望を未来に送るだけで、それが実現するなんて。

正直に言うと、私はまだ自分のブーメランを待っている。時の砂の中でどこかへ行ってしまったのではないかと、行き止まりに突き当たったように感じる。あなたの願望は信じる力が弱かったから、私のブーメランはここまで飛んでくることができなかった。

私は毎日、他の誰かのルールに従って暮らしている。だから私も同僚も、嫌な仕事を耐え忍んでいる。過去の自分がそんな生活に慣れるよう命じているのだから！ 私たちはただ、過去の何かの間違っていただけだと後悔するしかない。道をはばむすべての山を動かし、自分をありのままに受け入れるよう、自分に言い聞かせるべきだったのに。

自分を信じて！

父さんの言葉を思い出して。「ルールに従うことより、車にひかれないようにすることの方が大切だよ」。一番大切な目標は、完璧なバージョンのあなた自身になることではなく、幸せな人間になること。そして、それは何も無い所から進む道を切り拓くこと。

私のために新しい人生を創り出して！

私たちはまったく違うけれど、見えないリンクで強く結びついている。それを通じてあなたの思いが私に送られてきて、ここで現実になる。

周りを見渡してみても。あなたの人生は、一人の小さなプリンセスが夢のレンガで建てたお城のようなもの。それは、善き魔女になって素敵な世界を作ろうと強く思っていたあなた。だからどうか、信じる心をもってブーメランを投げて、私を取り巻くこの空白を埋めて。

未来への賢い案内人

(原文は英語)

プレイズ・ムメソマチュクウ・チュクメレゼ (12 歳)

ナイジェリア・リバース州

シュアブルーム・ハイスクール

プレイズへ

10 年前、あなたはどうしていたでしょうか。思い返すと、より良い明日をひたすら夢見てそれを信じ、生き生きとしたあなたが目に浮かびます。これまでにたくさんの出来事と技術の進歩がありました。その多くが 2020 年という昔にいるあなたを圧倒することでしょう。そのいくつかをあなたに知らせておかねばなりません。あなたはまだずっと若く、私という 2030 年の未来の自分に道案内してもらい必要があるでしょうから。

22 歳になるまでの 10 年間で、私は良いことも悪いこともたくさん経験しました。どんなことがどのように起こったのか詳しく話すことはできないけれど、これから起こる未来について、いくつか警告や役立つアドバイスをすることはできます。

世界はあなたの想像をはるかに超える進歩を遂げました。未来のことを考える時、あなたは機械やロボット、今よりもさらに進歩した電子機器ばかりを思い浮かべるかもしれません。それが間違いであることを今から私がお知らせしましょう。

農業と環境は社会に大きな役割を果たしています。それらの重要性がさらに増すようになったのは、技術の進歩のおかげではありますが。農業はついに主な収入源として原油を上回り、環境もこれまで以上に重要視されるようになってきました。農業と環境がさまざまな国々を結びつけ、国同士が世界的問題について意見を出し合い、解決策を提供し、さまざまな産業部門の協力を得て互いを支援するようになりました。今では地元産の新鮮で健康な農産物が手に入るようになり、化学保存料や発がん性着色料の使用が禁止されています。今日では、多くの途上国で国の機能の改善が進み、何よりも、工場や農牧場で子どもたちが労働力として利用されることがなくなりました。

今の私は環境保護活動家です。私の役割は、環境を守るための最善の方法により、ナイジェリアの健全なエコシステムを守ることです。産業の炭素排出量削減を進める政策を提案し、環境法の厳守を監視しています。緑豊かな環境を持続させ促進していくために、毎年数百万本の木を植林しています。また、さまざまな政府機関が協力し合っています。地球を保護するための省が新しく設置されたことで、私たちの機関がたいへん必要としている資金が継続的に提供され、気候変動対策に関する国連の持続

可能な開発目標を今年 2030 年に達成するために、あらゆる取り組みを支援しています。

私が環境保護活動家の道を選んだのは、地元の農業従事者、気候変動活動家、ソーシャルワーカーや医療従事者に大きな影響を受けたからです。石油流出から環境を守る運動を展開したり、気候変動に関する重要な法律の制定を求めたり、社会的に最も弱い立場にある人々を支援したり、何よりも、エボラ出血熱や Covid-19 といった死につながる病を抱える人々を全力で助けるなど、こうした思いやりある人々の生命を救うための活動に、私はたいへん刺激を受けました。

2019 年末に感染が始まり、世界的に流行した Covid-19 は、2030 年の世界ではもう問題ではありません。ワクチンが開発、承認され、政府が認定した病院に広く供給され、誰もが無料で摂取することができます。以前と同じではないものの、感染拡大以降、私たちの生活は大幅に改善しました。企業は損失から立ち直り、多くの人々がソーシャルディスタンスを守り、再流行を防ぐ健康対策を設けたところもあります。広い意味で言うと、Covid-19 の世界的流行は、適切な衛生習慣を軽んじてきた人々に対して警鐘を鳴らす役割を果たしました。医療従事者の熱意と犠牲は、人間が持つ闘いの精神の手本であり、近代史上最悪のパンデミックに私たちが勝利した証であり続けます。

最後に、あなたがどんな人なのかを覚えておいてほしいと思います。あなたは、恐れを知らず、努力家で、賢くて、才能にあふれ、正しいと思うことや真実だと思うことのために立ち上がる女の子です。忘れないでください、未来は決まっているわけではない、必ずやってくる未来で起こる現実、あなたの日頃の決断次第だということを。あなたには、未来を築く力もあれば、それを壊す力もあります。けれども私はいつも信じています。あなたが強い決意と意志を持ち続け、正しい決断をし、素晴らしい未来に踏み出してくれることを。

私は確信しています、他にはないあなたらしさが自分を導き、2030 年の私を超えて、未来をつくり出していつてくれることを。

愛をこめて
プレイズより

傾いた天秤 (原文は英語)

田野井 羚歌 (13 歳)
東京都
渋谷教育学園渋谷中学校

13 歳の私へ

数日前、アメリカで素朴な小さな町を車で通りかかった時、6 年生の集団を目にした。皆、アイスクリームを手に道を歩いている。金髪で白い肌の子はコーンの上で渦を巻いたダークチョコレートアイスをなめていた。黒い肌の子の手にはバニラアイスが握られていた。その集団の中には黄色い肌のアジア系の子もいて、バニラとチョコレートのミックスアイスを食べていた。アイスクリームを持っているのとは反対側の腕を互いに絡ませながら、無邪気で興奮した笑顔を顔いっぱいに浮かべていた。これは私が 2020 年に見たかった光景だ。でも、実際に見ているのは 2030 年だ。

いつものように、私はその瞬間を写真のように頭にはっきりと焼き付け、本のアイデアをまとめてあるノートに後で書き留めた。ライターである私は、絶えず何か面白い話はないかと目を光らせている。それと同時に、今話したような感動的で心が引きつけられる瞬間を描き、たくさんの人たちに読んでもらえるようにしたいと考えている。唯一最大の願いは、私のストーリーを読んだ人たちに感動してもらいたいことだ。私のストーリーがその人たちの心に残り、孫の代にまで伝わってくれることを私は心の片隅で祈っている。

2020 年の時のことを考えると、「イノセント・バット・ブラック (無罪、でも黒人)」という短いエッセーを書いていたあなた、ではなく、私のことを思い出す。そのエッセーで確かあなたは、1933 年頃を舞台にした『アラバマ物語』という小説の中で一人の黒人男性が犯してもいない罪に問われる様子について書き、さらに最後にこう締めくくっていた。「長い年月が過ぎた 2020 年になっても、いまだに人種差別がある。テクノロジーの進歩とは違い、人間の思考がどんなに進歩していないことか」と。でも私は、その後の 10 年間で私たち人間がついに、人種差別に対してスヌーズボタンを押すのを止めたと断言できる。今、私は胸を張って言える。「人種差別」という言葉がもはや存在しないばかりか、人種差別という行為自体がなくなった社会に私たちは生きています。

昔の私に向けて何を書いたらいいか考えたとき、いくつか選択肢を検討した。一つ目は、さまざまな形で私に影響を与えた人生の大事件をいくつか伝えるというもの。ただ、人生という旅でスリルを味わえるのは未知の部分があるからなので、このアイデアはやめることにした。次に、今後数年であな

たが経験することになる失敗を、前もって知らせるというアイデアも考えてみた。けれど、もしもそうした失敗をしなかったら、私は今の私ではなくなるので、これもやめることにした。結局、三つ目の選択肢にした。今はわかっているけれど、もっと前に知っていればよかったと思う教訓を授けるというアイデアだ。

私は天秤のような地球を思い描いて、自分に問いかけた。もしも私たちの性格、性別、人種がすべて同じだったら、世界はどんな感じだろうと。すると頭の中に、全く同じ人間同士が一方の皿にだけ集まり、もう一方の皿には誰もいない状態で片方に傾いた天秤のイメージが浮かんだ。しかし、もしもっと別の人種がいたら、もう一方の皿にも人間が集まるので、バランスの取れた社会が生まれる。言い換えれば、私たちの間に違いがあるから、それぞれに欠けているものを補い合うことができる。私たちの間に違いがあるから、互いを必要とする。

その一方で、もしも自分が不当に扱われている、不当に評価されている、正しく理解してもらえていないと感じたら、その人は天秤に乗ることを拒否することもできる。そうするとバランスが崩れることになるだろう。あなたの役目は、誰もそんな思いをしなくてすむようにすること、あなたたち一人ひとりが正当な扱いを受けるようにすることだ。だからといって、資金集めや抗議運動をしるという意味ではない。私が言っているのは、情熱をこめて声を発すること、あなたの場合であれば書くことによって、そうした考え方を広めていくことだ。

映画で目にしたように

(原文は英語)

ジュリア・ペイショット・フェルナンデス (17 歳)

ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ州

セスク高等学校

ブラジル、2030 年 1 月 1 日

ペイショットへ

マヤ歴のカレンダーの予言通り、世界は 2012 年までに終わるとずっと思っていた。父さんの車に乗って、窓越しに夜空を見つめ、人類の存在がどんなふうにも消滅するか想像したのを覚えている。2012 年が終わったとき、私たちはまだ存在していた。そのとき気づいたのは、人類を滅亡させるものは遠くからやって来るわけではなく、すでにここにあるということ。それは、私たちの共感の欠如、憎しみ、偏見。そして人類を救えるのは、私たちが団結できた場合だけだということ。

あなたはもちろん、こんな分析をすでにしたことがある。私、というか私たちが 17 歳だった頃は、世界に存在する不平等を受け入れることができなかったから。でも、本音を言ってしまうと、南米の国で人種が混ざった家庭に女の子として生まれただけでは、人種、性別、社会的地位、性的指向、性同一性のために、誰かが最悪の扱いを受けねばならない理由は決して分からない。

私たちはもう、過去に多くの人がしていたように、不可解なことを受け入れたり、恐ろしい差別を正当化しようとしたりする必要はない。そう、私たちが思い描いた一番素敵で希望の中でさえ、私たちの世界がこうなるなんて、垣間見ることはできなかった。今は何もかも違うの、ジュリア！ あなたは、私たちが苦勞の未実現した変化にとっても驚き、嬉しくて圧倒されるだろう。

私たちがずっとそう信じていたとおり、変化のプロセスは教育を通じて始まった。学校教育は、全学年でみんなが無償で受けられるようになり、公的教育とユネスコの取り組みにより、誰もが同じように勉強できる可能性に恵まれ、そのおかげで、大学入学や就職はこれまでよりずっと公平な条件で行われている。なにしろ、仕事のキャリアのスタートラインはどの学生にとっても同じだから。さらに、教育は優れていて、人種、宗教、ジェンダーに関する学習や、人それぞれの個性となる違いの尊重、理解と受容が含まれている。

教育が民主化された結果、科学も大きく進歩した。現在、世界は再生可能エネルギーのみに支えられていて、社会を脅かす病気は治療可能になり、感染症の世界的大流行発生を防ぐワクチンが全員に無

料で提供されている。

同様に、基本的人権としての医療が世界中に普及して、経済的な理由で受けられない治療のため、長い列を作って待つ必要がなくなった。戦争地帯や恵まれない地域に見られたような、医薬品の不足はもう起こらない。すべての人間が、提供される医療を受け、尊厳をもって生きることができている。

さらに、芸術や文化の表現が基本的権利として高く尊重され、社会生活に欠かせないものと見なされている。そうなの、ジュリア！ 芸術が社会を再建する重要な要素と考えられる日がくるなんて、まったく思わなかったけれど、今の時代はそうなっている。記憶を保存し、将来の経験への道を開く上で、あらゆる形の芸術が持つ重要性をあなたは常に感じていた。未来のあなたの仕事はそれ。夢見ていたとおり、映画監督兼活動家になっているの。

私たちは映画を通じて、以前はフィクションでしかなかった社会の変化を記録した。公平で公正なコミュニティになるために社会が踏んできたステップが、私たちのカメラと心に永遠に記録されている。私たちが監督した映画は、社会関係や権利行使の不平等に抗議する作品で、今では私たちの映画が、憎悪や不正が過去に人々をどこに導いてきたか思い出させてくれる。

芸術が持っている、変革の力を忘れてはだめ。きっと正しい道に進む手助けをしてくれる。映画と同じように、冒頭のシーンで下した決断が物語の最後まで影響することを忘れないで。私たちの映画は、起こったこと、忘れ去られることのないものを記録する大切な証拠。人間の過去の過ちや間違っただ判断について知ることは、それを再び起こさないために役立ってくれるから。さもないと私たちの歴史は、過ちと不作為のくり返しになってしまう。

どんな権利も当然のものと思わないで、ジュリア！ 理想の環境になった今でも、私たちは戦いを続けている。もう誰も、二度と苦しむことがないように。

人類が実現できる変化に大いなる希望を抱いて
ジュリア・ペイショット

輝きのるつぼ

(原文)

曾根 優花 (17 歳)

東京都

晃華学園高等学校

今年 SDGs の目標達成を間近に控えた 2030 年。世界では大きな転換期を迎えています。そんな中、日本でも大きな変化が起きました。それは、「難民鎖国」の脱却です。そして日本には「仲間」が増えました。現在日本人は、10 年前には知りもしなかった国の人々と知り合い、共生しているのです。高校生の時に参加した模擬国連大会を機に世界へ目を向けるようになった私は、大学卒業後、難民の方々の生活支援、保護に携わる仕事に励んでいます。

たくさんの難民が入ってきたら日本社会は混乱したかと言われれば、実はそのようなことはありませんでした。正直、良いことばかり浮かんでくるのです。この日本社会の変化に伴って、私の視野は確実に、180 度拡張されたと思います。道をずっと右にお散歩に行くとそこには大きなキリスト教会が建ち、信者だけでなく、近所の人たちが教会に集まり平和なひと時を過ごすのです。少し左に行けば、イスラム教会が見えます。ハラルフードマークも馴染み、今ではそのような考慮がされている店が至る所に見受けられます。裏へ入れば、初めて聞くような国の郷土料理を提供する店や、珍しい伝統文化品を買い求める客で賑うのです。一方で、外国人が日本文化への理解を深めるために、日本の伝統文化品を扱う店が再興され、改めて日本文化を見つめ直す人々が増えたように思います。この「文化の give and take」は物理的にも精神的にも日本国民に豊かさを恵んでくれています。

加えて、庶民生活の幅を超え、近年では帰化した日本人のさらなる政界進出が著しいのです。日本を客観的にとらえられる視点は今日のグローバル社会において非常に大切なことです。多角的な政策により、日本のさらなる発展が期待できそうです。

難民の方々との仕事を始めて、もちろん、苦しい場面に遭遇することもあります。むしろ、想像を絶する経験をしてきた方ばかりです。命を追われ、危険を冒し、ようやく日本にやってきた方々をできるだけ多く受け入れることが要求されている一方、それが難しいのが 2020 年でしょう。少なくとも当時の私はそのような人達の現状に気づいていませんでした。難民の人たちの習慣、文化は理解しがたいし、遠い国だからと言って、他人事として見て見ぬふりをし続けていたように思います。しかし、10 年を過ごして、彼らを受け入れなければ出会えない価値観に私はたくさん遭遇しました。その度に、好奇心に掻き立てられ、誰にも取って変えることのできない貴重な彼らの文化、精神として受け入れるのです。そんな姿勢をこの 10 年の間に私は学ぶことが出来ました。当時年間約 50 人弱

しか難民を受け入れていなかったあの時と比べ、今では世界有数の難民を受け入れ国へと進歩しています。それは、日本人一人ひとりがさらなる世界への協力へと歩み始めた証拠なのです。

17歳のあなたは、大学に行き、多くの人と出会い、日本という殻を破って多くを学ぶ機会に恵まれることでしょう。その時は、ぜひ、自分から進んで海外に目を向け、知ろうとする姿勢を持ち続けてほしいのです。大学に行けば、論文やプレゼンテーションなどでの意見交換があり、社会に出れば、外国人でなくても、多様な人々との交流のチャンスがあるはずです。世の中には出会ったことのない「価値観」という宝石が至る所に散りばめられています。あなたは、できるだけその多くの「宝石」を見て、その計り知れない種類の多さに驚き、発信していくことが出来れば、必ず、内面的に豊かな人間に成長していきます。そうすれば2030年を迎えるとき、今の私よりも、世界の捉え方がきっと上手になることでしょう。

2030 年の私からの手紙

(原文は英語)

タリーゼ・チャン・ルオ・イー (9 歳)

シンガポール

ナン・フア小学校

タリーゼへ

私は 2030 年の未来のあなたです。時をこえて電子メールを送るのは今回が初めてです。信じられないだろうけど、読んでください。

昨年 12 月、私たちのチームは、時をこえてメールを送ることのできるコードを発明しました。すごいでしょ？ 私たちは今、過去の自分と未来の自分にメールを送っています。あなたのことはよく知っていますから、きっと今ごろ興味しんしんのはずです。

あなたの未来について話します。私たちの両親はまだ生きていて、休むことなく働いています。父のことをよく知っている私としては、今の生活は父が望んでいたものとはまったく違うと思うのですが、今の生活費は 2020 年よりも高いのです。10 年前とは異なり、今の高齢者は若い働き手と同じくらい生産性があります。ですが、彼らはフードコートの清そう員として働くことはもうありません。私たちの国では、自分たちが使った食器は自分たちで片付ける習慣が定着し、利用者も使った場所をきれいに保つように協力するようになったからです。

ロボットが世界を乗っ取るかもしれないと怖がっていたことを覚えていますか。実は今、そうなりつつあります。フードコートや屋台市場は完全に自動化されて、肉体労働や食事の調理販売は、ほとんどがロボットの仕事です。そういえば、母が昔、フードパンダやデリバリーのアプリで宅配フードを注文していましたね。2030 年の世界では、ドローンを使って食べ物を配達します。多くの仕事をロボットや自動システムが代わりにするようになりました。ありがたいことに、人の感覚や人間の判断が必要な仕事は、今でも人間の手で行われています。

どうして高齢者が今でも働いているのか不思議に思っているかもしれません。COVID-19 の流行後、さまざまなウィルスや、インフルエンザ、認知症、ガン、糖尿病といった病気の治療の研究に、たくさんのお金が使われました。人間も適応して、今では 100 歳ぐらいまで生きて、85 歳ぐらいまで働くのが普通です。高齢者のほとんどが健康なままなので、昔よりも長く働いています。世界的に出生率が下がるにつれて、高齢者の労働力が必要とされるようになりました。働き方も昔より柔軟になり、在宅勤務かオフィス勤務かを選ぶことができます。

幸いなことに、社会的能力を身につける必要のある子どもたちにとって、ずっと家にいるというわがままは許されません。もっと楽しく学習できるように、生徒は皆、教科書がつまったカバンの代わりに、ホログラムが見られるアイパッドを学校に持っていきます。また、小学生が受ける主な学年試験はすべて 2025 年になくなりました。つまり、今では小学校の卒業試験(以前は「全国统一卒業試験(PSLE)」と呼ばれていました)を受けるだけです。

試験があろうとなかろうと、大学に入ることができました。私と友達は、コーディングとエンジニアリングを勉強することにしました。今まで私は、ロボットが世界を乗っ取るのではないかとひどく心配していましたが、テクノロジーの一步先を行くのに役立つ発明の仕事であれば、簡単に取って代わられることはないと思いました。私の最初のプロジェクトでは、友達と一緒に、時をこえて電子メールを送るコードを開発しています。大学に入る前にインターンとして働いていたことがあるので、コーディングとエンジニアリングでは多少の実践的な知識があります。いずれにしても、人類に起こったあの最後の変化に比べれば、こうしたことは、どれもささいなことです。

あなたは今、COVID-19 に見舞われていますね。私たちがそのウィルスを怖がっていたことははっきり覚えています。ですが、どんなに苦しい時も明るい兆しは見えてきます。ウィルスがなくなった後、人々はそれまでよりも優しく、親切で、思いやりを持ち、寛大になりました。長い間家に閉じこもっていたので、当たり前だと思っていたことすべてに感謝の気持ちを持つようになりました。出かけたり、友達とおしゃべりしたり、チームで仕事をしたりといったささやかな喜びを失い、寂しい思いをしました。人々が気づいたのは、命はとてももろいということ、そして、精いっぱい生きて、命を大切にしなければならないということです。

コロナウィルスは事実、シンガポールの人々にとって考えさせられるきっかけとなりました。自給自足ができる国にならなければいけない、食料や生活必需品を確保するために外国だけに頼ってはいけないと学びました。あなたが 15 歳になった時、屋上や空き駐車場、学校内の空き地だったところにたくさんの庭が作られて、若い芽が伸びてくるのをあちこちで目にすることでしょう。

またメールを書きます。その間に、母に野菜づくりをはじめようをお願いしておいてください。

愛をこめて

2030 年のタリーゼ・チャンより

苦難の中の輝き

(原文は英語)

ダニエラ・オドン・アジアナット (13 歳)

ウガンダ・カンパラ市

マウント・セント・メアリーズ・カレッジ・ナマングンガ校

ダニエラへ

なぜ私があなたに手紙を書くことにしたのか、きっと不思議に思っているでしょう。どうして 2030 年で、どうして今なのか。その理由はもしかしたら、私たちが世界平和を達成したことを伝えるため。あるいは、気候変動の危機が過去のものとなったから。もしかすると、コロナウィルスの世界的流行に関するドキュメンタリーを、ヒストリーチャンネルで見ることができるようになったから。「答えは美しい夕暮れの中にある」なんて言ったら、あなたは私のことを信じてくれるでしょうか。空のキャンバスで太陽の光がピンク、紫、ブルーに混ざり合っただけで色とりどりに輝くのを眺めていると、真の美しさは違いの中にこそ見つかるもの、それを空が証明していると、私は強く思います。

私がいる世界の話をしてしまおう。世界は最悪の時を迎えて団結しました。今日、世界はこれまでにないほど正常な状態です。COVID-19 の世界的流行は、私たちの生活様式の単なる曲がり角となっただけではありません。何が本当に大切かという疑問を多くの人々に投げかけました。自分たちの人生の一部を費やすほどの価値があるものと、そうではないものは何かという疑問です。私は、この歴史上かつてない悲劇が、このような素晴らしい未来を描くことができるなど、夢にも思いませんでした。

人々が優先事項の大掃除を行なったことで、パンデミックはそんな人たちのコミュニティ意識を深めました。皆が協力してホームレスのための家を建てたり、道で知らない者同士が素敵な笑顔を交わしたり、今ほど優しさがはっきり見えることはありません。こうした人々の愛は、私たちの地球にも響き渡っています。色とりどりの鳥たちが、太陽の強い光を恐れず自由に飛び交っています。空は今までになく青く、大気汚染もありません。こうしたことはすべて波及効果です。私たちが費やした時間の結果ではなく、私たちがやると決めたことの結果です。

感染症の流行前は、多くの人々がネット中心の生活をしていました。パソコンの画面や電子機器に張り付いた生活を送っていました。自分の周りの人々に対する感謝の気持ちを忘れていました。パンデミックは、そんな世界の一時停止ボタンを押したようです。人々は外の世界から引き離され、電子機器が話し相手となりましたが、それでは十分満足できませんでした。人と一緒にいられることだけでなく、その人々を愛し、一緒に過ごす時間を大切にするこの価値に気づいたので。多くの

人々の命を奪ったこのような災難を経験して初めて、そのことに気づいたのかと思うと辛くなります。

あなたの夢はいつも、神経に障害を負った子どもたちを助け、普通の子ども時代を過ごせるようにしてあげることでしたね。小児神経外科医である私にとって、それは今でも大切な夢です。私は今、自分の力を手術室の外でも発揮すべきだと思うようになりました。そのため私は、世界中の数多くの児童保育機関と協力して、障害のある子どもたちを支援しています。自分たちの価値に気づく手助けをし、彼らがそのまま十分であることを教えてあげたいのです。この情熱は何ものにも代えることはできません。障害のある子どもたちは、私にはとても敵わないほど勇気があります。苦しい時に見せる彼らの笑顔は、私にとって最高の贈り物です。どんなに嫌な一日であっても、私はいつも、誰か特別な人の人生に触れたかのような気持ちで家に帰って来ます。

違いの中にこそ計り知れない美しさがあります。ダニエラ、この手紙を読む頃までには、あなたがそれを理解できるようになってほしいと思います。他の人には雨降りにしか見えない日でも、きれいな虹が現れる前ぶれだと思うようにしてください。困難な時だからこそ、本当の輝きが見つかるのです。毎朝、昇ってくる太陽の光に目を覚まし、空のキャンバスが黄色、オレンジ、深紅と色とりどりに輝いているのを見たら思い出してください、それはいつも同じではないことを。時には落ち着いたラベンダー色の日もあります。それでも素敵であることに変わりはありません。同じように、あなたの人と違う部分を発揮して、他の人のそうした部分を照らす光となってください。あなたの世界がその違いを活かせるのは、まさに今かもしれません。

愛をこめて

たった 10 年先のあなたより

—つ—つ

(原文は英語)

ジュリアヌ・フランセスカ・バース (13 歳)

フィリピン・ケソン市

若い頃の私へ

もし私が「10 年後は世界中で戦争が起きていて、パンデミックや感染症に見舞われ、行く先々で人種差別は当たり前」と言ったら、あなたはどうしますか。私のことを信じますか。そんな仮定の運命から目を背けますか、それとも、そういうものだとして受け入れますか。もし私が、これとは別のことが起こったのだと言ったら、今よりも信じる気になりますか。「世界が突然変化して、人々も変わったのだ」、「空気はきれいになって、国家間の緊張はなくなり、これまでよりも緑豊かな環境になり、私たちは人それぞれの短所を受け入れ、調和のとれた一つの人類として生活するようになった」と言ったらどうでしょう。こんな話であれば、喜んで信じますよね。信じてください。確かにそれが真実なのでから。

今は 2030 年。私があなたに伝えたいのは、世界中で一人一人が、これまでよりほんの少し努力したことで、この 10 年間にどれだけの変化が起こったのかということです。私が今いる場所から見える光景を説明しましょう。私は今、広々とした自宅の床に座ってこの手紙を書いています。私の左側には散らかった机があり、その上には 3 年前にプレゼントしてもらったソーラーライトがあります。右側には台所に通じるドア、正面には外の通りがよく見える、幅の広い窓があります。表では子どもたちが遊び回っていて、大人たちはいつものように近所の人とおしゃべりしながら、物売りから品物を受け取ろうと並んで待っています。通りは食べ物などを売る人たちであふれています。人々は以前ほど頻りに食料品店に行かなくなりました。私が住んでいる通りの奥には、かつて山のような大型のゴミ収集箱がありましたが、近隣の人たちで対策を取り、代替作物を栽培する小さな土地スペースとして、ここを再利用することにしました。10 年前のパンデミックで経済的被害を受けた人たちが手入れをして、健康な土づくりがされています。昔は貧困生活を送っていた人たちですが、政府やボランティアの支援を受けて新しい生活をスタートさせました。

状況は以前よりも良くなりましたが、これは大きな犠牲を伴いました。世界は回復に向かってはいませんが、環境破壊の跡がいまもはっきりと残っています。国によっては、1 カ月以上も続いた森林火災でその大半が失われ、いまだに回復していないところもあります。10 年前に島々を襲った津波により、人々が散歩していた非常に美しい海岸の一部が浸食されました。私たちの海は、無責任で無神経な人

たちが捨てていったゴミが積み積みしたことによる、長年の環境破壊を耐え忍んできました。そこから回復するにはまだまだ時間がかかります。人類が犯した自らの過ちが巡り巡って私たちに降りかかり、ある意味、それまで誰もが普通にしてきた物事のやり方を、互いに協力して大きく変えざるを得なくなったと言えるでしょう。ルールを修正し、境界線を変更し、環境に優しいシステムを導入し、これまでよりも開かれた平等な社会を選ばざるを得なくなりました。私たちが地球を限界にまで追いやった結果、皆が当然の報いを受けることになったのです。

私があなたにこの手紙を送るのは、失われる危機に面しているものが何であるかということを知ってほしいからです。それは、あなたの未来です。今、あなたの周りには問題があふれていますが、これからも前向きで希望を捨てずにいてくれるよう祈っています。あなたにこの手紙を書いているのは、未来を信じ、自分にもう少し自信を持ってほしいからです。これが、今私からあなたに伝えたいアドバイスです。できる限りベストを尽くし、手助けをし、恐れずに意見を述べ、他の人たちにも同じことをするよう働きかけてください。より良い未来があなたに必ず訪れることを願って、私はあなたにこの役割を委ねます。私はあなたに約束します。2030年の世界では誰もが学ぶことを止めず、自分たちの生き方を改善し続けているということ。時間はかかったかもしれませんが、これまでに学んだ教訓を活かして世界を立て直していきます、ゆっくりと、一つ一つ。

愛をこめて

ジュリアンヌより

あきらめないで。2020 年の私

(原文)

尾崎 惺 (13 歳)

東京都

東京学芸大学付属世田谷中学校

突然ですが、あなたは「10 年後の世界」がどのようになっていると思いますか？ あなたはきっとこう思っていたはずですよ。「このままだと、地球温暖化が進み、多くの地域で人が暮らせなくなってしまふ。そしてアフリカなどの貧しい人々との貧富の差は、一向に改善されないだろう」と。でも今は、それが改善されつつあります。2020 年の時より、人々は「みんながより良いと思える世界」をつくろうと、必死に頑張っています。そう、それも自発的に。人々は昔より、「他人へ感謝」をするようになりました。私もそのうちの一人です。「自然への感謝」、「生活品を作ってくれている人への感謝」。今、考えてみれば「感謝」は、「謙虚さや生きる喜び」を与えてくれ、それは「自身や人々の幸せ」を与えてくれたとつくづく思う。

さて、今のあなたはどうかでしょうか。他人に十分な感謝をしていますか？ 身の回りにある、「当たり前」に感謝をすることで、それが将来への行動へつながります。しかし今、あなたは中学生なので、大人と同じことをするのは難しいでしょう。しかし、そんなあなたにも出来ることは沢山あります。例えば、「このように意見を発信したりすること」です。環境問題や貧富問題には、なにか新しいアイデアが常に求められています。あなたが書き続けている投書も、将来絶対に役立つはずですよ。私達が今おこなっているボランティア活動も、いろいろなアイデアに何度も救われました。

そして、2020 年に起きていた争いも、今ではすっかり無くなりました。たぶんそれは、「みんな」が幸せになったからでしょう。今は、みんなに教育などの機会が平等に与えられ、とても公平な世の中になっています。

まさに、2020 年の日本のようです、今は、みんなが自分の目標を目指せるすばらしい世の中ですよ。そして、貧困地域の雇用も大幅に増えました。発展途上国で、まずは第一次産業を盛んにするため、沢山のボランティアが協力したのです。それも、一人ではありません。みんながです。私自身も、みんなに呼び掛けを行っています。特に恵まれた国に生まれたあなたは、もっと積極的に行動しても良いかもしれません。あなたの行動次第で、沢山の命が救えます。

教育現場も大きく変わりました。まず、2020 年の時より、教育を受ける子供の数が増えました。なぜなら、IT 技術の進歩が、教育現場に応用されたからです。教育が何らかの理由で充実していない地域には、「オンライン授業」を取り入れました。これにより、すべての子供たちが不便を感じることもな

く、教育を受けられるようになりました。また、それらの費用は、ほとんどが寄付金です。私も一人の人間として寄付をしました。

あなたは一人の中学生、いや一人の人間として、いろいろな「子供だから感じること」を発信してください。特に、教育に関しては、「子供が感じていること」に大きなヒントが隠されているのです。「自分だからできること」を大切にしましょう。

こうして、この「みんなが暮らしやすい世界」になったのは、「自分ができること」を一人一人が考え、実行したからです。中学生のあなたにできることは沢山あります。「意見を発信すること」。「まずは、その実態について知ること」などです。決して「一人の努力で変えられる訳がない」と、諦めてはいけません。その一人一人の努力が、結果的に世界を救うのです。

あの日の私へ。

(原文)

清水 楓乃 (15 歳)

東京都

東京純心女子中学校

あなたは今、幸せですか。突然変なことを聞いてごめんなさい。私は、10 年後のあなたです。今回、あなたにどうしても伝えたいことがあって、この手紙を書いています。

でもその前に、まずはこの 2030 年の世の中がどうなっているのかをお話ししますね。私にとっては現在、あなたにとっては未来のこの世界では、実に様々な技術が進歩しました。例えば政治。ここ最近になって、少しずつ女性議員の数が増えてきました。女性にしかわからない悩みを解決できるよう、精一杯努力してくれています。とても頼もしいです。また、交通に関しては、自動運転が当たり前の時代になりました。事故の回数も、年々減少傾向にあります。いつか、交通事故が無い世界になればいいな、と思います。教育現場では、色々な事情を抱えている子供たちに対して、一人一人に合った教え方をすることが可能になりました。例えば、学校に行けない子には、授業を動画化していつでも学べるようにしたり、勉強が嫌いな子には、ゲーム感覚で楽しく学べるように工夫したりと、各学校で知恵を絞り合い、実践しているようです。医療現場では、様々な病気に対する特効薬が作られました。レントゲンなどはより正確に解析できるようになりました。検査の結果も 10 年前の半分以下の時間で出るようになったため、何の病気なのか、どう対処すればよいかを即座に判断できるようになりました。この技術により、手遅れだという患者はほとんどいなくなりました。医学の大きな進歩です。ちなみに私は今、重い病と戦う子供たちを支える、小児外科の看護師として働いています。いくら医学が進歩したとはいえ、未だにわかっていないことだらけの病気はたくさんあります。そんな病気の子供たちを支え、小児外科医の先生を手伝うのが、私の仕事です。看護師になるための道のりは、想像よりも遥かに過酷で、大変なものでした。しかし、それを乗り越えた今は、とても充実しています。担当した患者の子が退院したときの嬉しさと言ったら、言葉に言い表すことなどできません。もちろん、医療の現場ですから、悲しいことも、酷く落ち込むこともたくさんあります。でも、それでも私は、この仕事を辞めることができません。なぜなら、この仕事が好きだから、辛くても、悲しくても、好きなことはやめられませんよね。だからこそ、私はこの仕事を続けられているのだと思います。私はあなた、あなたは私だから、きっと考えていることは同じはず。だからお願い、好きなことを決して諦めないで。これが私がどうしても伝えたかったことの一つ目です。

もう一つは、また別のお話。今度は過去にあった出来事。私は小学校 3、4 年生の時に不登校になっ

てしまいましたね。そして5、6年生で通った塾で、酷いいじめに遭い、中学校1年生の時、再びいじめを受けた。本当に辛かった5年間でした。でもね、その5年間は、決して無駄ではなかったのですよ。人生に無駄なことなんて一つもありません。そう思える日は、いつか必ずやってきます。私から詳しくお話することはできませんが、これだけは伝えておきます。あなたの未来は、眩しすぎるほど輝いていますよ。私が先程お話しした未来は、あくまでも可能性の一つ。未来は変わります。そして将来の選択肢は無限大、全てはあなたの選択次第なのです。だから自信を持って、一日一日を大切に生きて下さい。私からのメッセージも忘れないでほしいな。あなたがまた少し大きくなったら、私のように、辛かった時の自分に伝えてあげてね。その時のあなたが思う、大切なことを。

テクノロジーとエコロジー — 平等主義者の視点から

(原文は英語)

アディア・カプール (15 歳)

インド・ウッタール・プラデーシュ州

アミティ・インターナショナルスクール・バスンドゥラ第 6 区校

アディアへ

元気ですか？私は元気です。たった今、私の本の出版に関するホログラム会議を終えたところです。木曜の夜だしもう週末なので、あなたに手紙でも書こうと思い立ちました（自動筆記ペンに向かって話しているという方が近いけれども）。「まだ木曜日なのにもう週末？」と疑問に思っているかもしれないけれど、実はここ数年の間に平日は木曜日までになったのです。

週末は 3 日に増えたけれど、仕事のある日は膨大な量の仕事に追われて大変です。私はここ 3 年ほど、サッカー AI 審判管理部で働いています。ドローンを使って試合の重大局面での審判員の判断を補助するシステムで、私たちはドローンを操作して、サッカー場の様子をあらゆる角度から再生できるホログラフィックビデオを提供しています。近年、たくさんのこのような技術や新しい手法が、さまざまなスポーツに導入されています。

あなたも知っているように、私は昔から書くことが趣味でしたが、今はプロの作家になりました。毎日、自分の作品をホログラム（ホログラフィックマガジン）で発表していて、これまでにオンライン書籍を 2 冊出版しました。読者を魅了するために、自分の本をライトモチーフや 3D グラフィックスなどを施します。

10 年ほど前に、森林を保護し、パッケージに使われる低品質プラスチックの使用を最小限にするために、本の印刷が廃止されました。この数年の間に、電子書籍リーダーは普及・進化し、今はホロパッド（Holo-pad）という商品が使われています。ホロパッドは、非常に細かい音声表現や読者を夢中にさせるようなグラフィックを使って、ホログラフィック本を朗読してくれます。でも、私には昔から本を集めるのが上手だったので、昔集めた大量の古い紙の本は、収納棚に大切に保管しています。今では世界に現存する数少ない紙の本のコレクションの一つです。最近の図書館は、ホロパッド、ホログラムプロジェクター、オーディオブック、AI 図書館員で構成されているのです。

今日の書籍出版会議中に奇妙なことが起きました。本にサインをしていたら、ドローン配達サービスの「ガルダ（Garuda）」が、私のホログラムプロジェクターの上に荷物を落としていったのです。

その途端、私はデジタルペンを手に持ったまま自分の部屋に引き戻され、机の上にはオーガニック食品と3Dプリントされた雑貨が入った荷物が置いてありました。「ドローンのセンサーは、なんでホログラムプロジェクターを感知しなかったのだろう」と思いましたが、ウィジェットの設定を確認したら、緊急配送（顧客の目の前に届ける設定）に変更されていました。犯人はたぶん私の10歳のいとこで、この前の火曜日にうちに遊びに来たとき、私の配送ウィジェットを触ったのだと思います。

明日は両親に会いに行こうと思っています。両親は今、ここから150キロほど離れた隣町に住んでいます。今では主要な公共交通機関になった浮上式鉄道で20分ぐらいです。車を使う人は劇的に減り、個人で車を所有している人はほとんどいません。その車も全て電動自動車かバッテリー式自動車です。最近、州をまたぐ旅行や海外旅行のための長距離スーパーloop（Superloop）ができました。

連合国国際連合「United Nations of United Countries（UNUC）」の加盟国のここ4年における主な目的は、生態系を回復することでした。そしてこの同じ目的のために、技術と環境に関する協定「Technology and Ecology Pact（TEP）」が署名されました。また、緑の革命が再び起こり、一連の環境保護活動が巻き起こりました。TEP組織により任命された技術と環境AI警察（Artificial Intelligence TE police）が世界中に配置され、人間と協力して生態系のバランスを保っています。

私も昔は、AIやIoTが世界を支配すると思っていたけれど、それは間違いでした。それどころか、AIやIoTは私たちを高めてくれています。AIと人類は素晴らしいチームになれるのです。昔誰かが言ったように、AIの頭脳と人間の知恵があれば奇跡を成し遂げることができるのです。

私たちは、環境を保護しながら技術的に進化して行かなくてはなりません。もしバランスを保ちながらテクノロジーとエコロジーを統合することができれば、世界は灰色になることはないでしょう。

さっきから私の万能デバイス「DIAD（do-it-all-device）」がずっと鳴っています。愛犬キーランをドッグストリートまで連れて行く時間です。それでは、どんなことにも全力で頑張ってくださいね。幸運を祈っています。

「未来を予測する最善の方法は自ら未来を創ることだ」

エイブラハム・リンカーン

愛を込めて

アディアより

World on the RICE!!

(原文)

島田 明日美 (17 歳)

埼玉県

筑波大学附属坂戸高等学校

10 年前の私へ。2020 年の私は受験のことやいつまで経っても彼氏ができないことへの焦りで頭がいっぱいで未来のことを考えている余裕なんてないでしょう。でもどうか今の学びは止めないでください。なぜなら 2030 年、27 歳になった私は今までの学びのおかげで幸せを感じることができているからです。

なにを隠そう、今この世は空前の米ブーム。米の消費量の減少が問題となり、食の欧米化とまで言われていたことはもう過去の事。今では世界中で米が食べられ、世界三大穀物の中でもトップに踊り出るくらいの人気を誇っています。なぜそんなことが起こっているのか。それには、私たち筑波大学附属坂戸高校の総合科の大活躍を語らないわけにはいきません。

大人になった私は大好きな農業の道に進みました。小学校の頃からの夢である日本一の米の開発に向けて動き出したのです。長年の研究と米作りを通して、高校で共に農業科として米作りを学んだ皆と一緒に新品種「ツクサカマイ」を開発しました。ツクサカマイは日本穀物協会の食味ランキングでコシヒカリですらとったことがない特 AA ランクを叩き出し日本を震撼させました。もちろん、この偉業は多くの農業機関から讃えられたたくさんの賞を受賞しました。でも大事なのはここから。私たちは得た賞金を使い高校で国際科だった皆と協力して発展途上国の稲を育てることができない国々にツクサカマイを寄付しました。日本一の米ですから、ツクサカマイはたくさんの国と人を笑顔にしました。ツクサカマイを広める活動は日本でも行いました。商業科の皆にも協力してもらい日本のテレビやスーパーでツクサカマイを広め米の消費量を増やそうとしたのです。しかし、事はそううまくいかず、ピザやタピオカなど派手な料理が目立つ世の中では、米にスポットライトはあたりませんでした。諦めようかと何度も考えていたその時、突如として米ブームは起こりました。日本の米はどんな食べ物にも合うという強みは寄付を行った海外の文化によく馴染み、人々の心を掴んだのです。この現象は海を越え、ついに 2030 年、日本にも米ブームがやってきました。

この米ブームは日本を大きく変えました。一つ目に様々なコシヨクの問題。米を食べることは粉ものばかりになってしまう「粉食」や、お釜で炊くことが多いことから個々で別々の食事をする「個食」を改善し、家族で食卓を囲む楽しみを教えてくださいました。二つ目は農業界。米ブームは農業の発展の起爆剤となり世界中で農業は発展しました。高齢化が心配された日本の農業でも、工業科の皆のおかげ

で体への負担が少ないスマート農業が開発され全国で取り入れられるようになりました。さらに、米ブームの到来から日本の和食は世界中で注目されました。欧米では「一汁三菜」の言葉が流行し、社会現象を引き起こしました。

米ブームは世界に影響を与え、地球全体を温め、「おいしさ」という「幸せ」を届けました。そしてそこには、農業だけじゃない多くの人の支えがあったことを忘れてはいけません。外国と日本を繋いだ国際科、消費者と生産者を繋いだ商業科、仕事をより良くするために多くの機械を開発してくれた工業科。総合学科の全ての学科が協力することで世界を動かすことができました。2020年の私は、普段日の目を見ることが少ない農業に学ぶ魅力を感じにくくなっているでしょう。でも、ツクサカマイが世界をおいしさで繋ぐことができたように、一見目立たない農業はこんなにも人を幸せにします。世界にはまだたくさん問題があります。貧困も戦争も完全にはなくなっていないけれど、私の大好きな米は地球全体を一つのお椀にのせることができました。だから胸を張って、これからも私の大好きな農業を学んでください。そして決して、毎日「いただきます」と「ごちそうさま」ができることはあたりまえではないことを忘れないで下さい。

自然に帰ろう

(原文は英語)

ジョウ・シャンフェイ (19 歳)

中国湖北省

中南財經政法大学

2030 年 5 月 30 日 木曜日 晴れ

田舎の朝に目覚まし時計は全く必要ありません。スズメの鳴き声と共に朝一番の日の光が部屋に飛び込んでくると、私は夜の間ベッドに潜り込んできた子猫を下ろし、新しい一日を始めるためにカーテンを開けるのです。

私は大学を卒業した後、2022 年から 8 年間、村役人として働いています。湖南省にあるこの小さな村は閉鎖的で未開発ですが、私にとっては魅力と挑戦にあふれた場所です。この村をより良くするためには教養のある若者の力が必要だと思ったからです。そのため、私は北京にある大手企業の内定を断って地元に戻ってきました。北京はたくさんの野心的な夢想家がいる近代都市です。彼らは都会のペースについていこうと頑張っていますが、自分たち一人一人がそれを加速させる要因になっていることに気づいていません。それは悪循環のように見えます。それとは逆に、田舎では時間に追われる切迫感がないため、のんびりと暮らすことができます。人々は自然の法則にならって日の出と共に動きだし日暮れと共に休みます。

一日の中で朝食は重要なので手は抜きません。自分の菜園で収穫したばかりの露に濡れたキャベツなどの野菜が、私が家族のために朝食を作るときが一番のお気に入りです。朝食の後、私は布靴とカジュアルな服装に着替えて、村の役場へと出勤します。交通渋滞も混雑している地下鉄もないこの村では、学校に遅刻しそうな子どもたちや公園で運動をしている老人たちの声が、この田舎を眠りから覚めさせてくれます。6 年前に村人たちの力を結集して作った道を歩く度に見える、とても誇りに感じるものは、道の両側の丘に植わっているたくさんの桃の木です。春の終わりに桃は収穫・梱包され、村の外へと出荷されます。私は、ここの気候が果樹の成長に必要な条件を完璧に満たしていることに気づき、果樹の植樹プロジェクトを数年前に導入して、村人たちと一緒に実験をしながら作り上げました。現在私は、涉外と今では村の重要な経済源である販売を担当しています。ここに住む人々のために、ぼろぼろだった田舎家は大きな屋敷に建て替えられました。そして、これらの変化は全てここ 8 年の間に肉眼で見える速度で起こりました。自然は私たちに無限の宝を与えてくれるため、この村の未来は無限の可能性に満ちています。私たちは山の近くに建物を建て水の近くに住み、自然の一部になって

います。

ここでは夜は涼しく、柔らかな月の光と心地いい虫の音が楽しめます。お年寄りたちは木の下でロッキングチェアに座ってくつろぎ、心の平静を得ることができます。子どもたちは楽しそうに、でも汗だくになりながら木の周りを走り回っています。私は数人の女性たちと一緒に座って、日々の出来事について少し話をします。そして、村の端にある、遠い地だけでなく未来にも続いている小道を見下ろして思うのです。騒々しい都会では、野心的な若者が不足することはありません。しかし、この小さく閉鎖的で未開発な村では、若い人たちがここに残って外の世界への道を切り拓いてくれることが必要なのです。私は村人たちや故郷のためにも、ここにずっと定住するつもりです。

月の光や星たち、そして道沿いに飛び回る蛍の光が家路を十分照らしてくれますが、近々村人たちのために街灯を設置する予定です。なぜなら、街灯は私たちをより良い生活に導いてくれる希望と繁栄の光のようなものだからです。今夜眠る前に、私は自分の気持ちと今日あった出来事を日記として書きとめ、丁寧に折って瓶に入れます。そして、明日この瓶を約10年前の過去、つまり2020年に向かって流れる川に流すことにします。この手紙を受け取って、10年後にどうなっているかを知った私は、2年後にする決断を後悔しないでしょう。なぜなら、これこそが私が望む人生だからです。

明日から夏が始まり、また新たな慌ただしい日々が始まります。この小さな村を除いて。

どうか、自殺しないで

(原文はフランス語)

ムピハリー・マヘファ・ラザフィンドラベザンドリナ (20 歳)

マダガスカル・アナラマンガ地域圏

ワン・ウェイ・フォー・チェンジ (非営利団体)

アンタナナリボ、2030 年 6 月 9 日

日曜は毎週、私は自宅で過ごす。夫は近所のハシエンタへ出かけた。ハシエンタは地元住民が世話を
する共同農地で、自分たちが食べる普通の食料が育てられている。WWF が生態系プログラムを立ち上
げたことを受けて、各地域で自給自足プロセスを始めることに、多くの国 (マダガスカルを含む) が同
意した。地元の起業家の支援と国際協力のおかげで、プロジェクトは大成功を収めている。私の夫もプ
ロジェクトの一員だ。

いい機会なので、家の中を片付けることにした。新しい盆栽を置いたとき、棚の上に置いてあった物
に目がとまった。十字架だ。10 年前の出来事を思い出させるもの。この手紙は君、2020 年の私に宛
てて書いたものだ。

そう、君が男の子を好きになる男の子であると、両親が気づいたのはその年だった。君が地獄に行く
と強く信じて、君が教会の司祭と会うことを求めた。その司祭は、いつか君がこの「病気」から「回復」
できるよう願って、この十字架をくれた。そして君は、クロルフェニラミンの錠剤を飲んで自殺しよう
と考えた。

幸いなことに、君は新しい友達を作り、そのおかげで生き続けることができた。お互いに惹かれ合っ
たけれど、彼がイスラム教徒の家庭出身だと知って、一緒になれるかもしれないという希望をすべて
失う。自殺願望が遠ざかることは決してなく、将来への不安や恐れも消えなかった。

でも今日は、素敵なお一日になりそうだ。2 時間後、毎週開いている文化交流ランチに近所の家族がや
ってくる。君が最近始めた恒例イベントで、今週は君の家が当番。夫がハシエンタから食材を採ってき
て、君がご近所さんのために料理する。オーガニック食材でいっぱいのテーブルを囲んで、参加した家
族が交流してお互いを理解するんだ。セシリアとサンドラは現在進めている養子縁組の申請手続きに
ついて、アフマドとヤスミナは最近のラマダン中の慈善活動について、オリビアはまだ小さなネイサ
ンの理学療法セッションについて話してくれるだろう。

こんな話は信じられないかな。イスラム教徒カップルが同性愛者カップルと同じテーブルにつこう
とするなんて、不思議に思うだろう。「レズビアンカップルが養子縁組を検討する?」「結婚が可能な

の？」と。ましてやここは、そんな変化が起こるとしても、世界で最もその可能性が低そうな国の一つ。

差別がまったく存在しない世界を信じることは難しい。侮辱が頭上から降り注ぐ日々の糧である世界では、信じることは難しい。

ジャーナリズムの学位を取得した後、私はマダガスカルの人々に対する差別についてレポートを書いた。このレポートでピューリッツァー賞を受賞して、ますます国際的に注目されるようになった。この機会を活かして有力機関とのつながりを持ち、雑誌を発行した。

雑誌の創刊以来、私たちは毎週、LGBT+の若者から彼らが受けた暴力と差別について何千もの証言を収集し、アフリカ各地の心理学者のオフィスと協力して彼らの話を聞いている。

強い思いがこめられた彼らのメッセージのおかげで雑誌は、たくさんの若者がLGBT+であることを主張できるきっかけとなっている。国際機関の支援を受け、大陸全体に変化の風が吹いてきた。性的指向に関連する死刑は廃止され、性別を問わず、全国民が合法的に結婚できることを多くの国が認めている。

今日も私は書き続けている。本当にやりたいことだから。私は文章を通じて、発言できない人の声になり、一人ぼっちだと思っている人を支え、死にたいと思っている人に希望を与えたい。10年前の私——君のような人に。

だから自殺しないでほしい。君と同じ状況にある何百万人もの若者が、声を上げられないでいる。彼らのために語ってほしい。死なないで、君は大切な存在だから。どうか自殺しないで、彼らには君が必要なのだから。

波及効果

(原文は英語)

クリシャ・キング・リム (23 歳)

フィリピン

フィリピン大学マニラ校

クリシャへ

私は今、この手紙を山の上の仮設テントの中で書いています。そう、数カ月におよぶ計画・準備期間を経て、ついに私と仲間たちは新たなミッションに乗り出したのです。今回は、ルマドというフィリピン諸島南部の先住民コミュニティを助けるためのものです。彼ら少数民族のニーズに応えるために、このテントが、十分な設備が整ったコンクリート製の診療所へと生まれ変わるのを楽しみにしています。とりあえず今は、私たちの月 1 回の訪問で行う健康診断や外来手術で事足り、以前よりも医療サービスが受けやすくなることを願っています。外に出てさまざまな人々に会い、医者の仕事は病院を出たら終わりではないと気づいたことは、私にとって新鮮な喜びでした。あなたは、将来に何が待っているのかといつも興味を持っていただけれど、教えてあげましょう。パンデミックが起きてから 10 年が経ちました。パンデミック後の反射的反応は、医療制度を強化し経済を復興させることでした。結局のところ、好調な経済には健康な国民が必要で、人々の健康を保つには好調な経済が必要であると皆が思い知らされたのです。しかし、健康と経済の関係は一对ではありません。健康には様々な要因があり、環境や教育、そして何よりも政治が人々の健康全般に影響を及ぼすのです。小雨が降り始めましたが、今いる場所からこの美しい景色を見ていると、私たちの健康維持を含む人間の試みの全てが自然に支えられているということを、改めて認識させられます。あなたは若い頃からこのことに気づいていましたね。そして、より持続可能な環境の実現を訴えることを大切に、ささやかながらも既に行動を起こしていたことを私は知っています。あなたが持ち帰り専門の食堂で、客に再利用可能な弁当箱やカトラリーの持参を促すポスターを貼っていたことも覚えています。現代の人たちも、自分たちがどれだけ自然に依存し、人間と環境の関係性がいかに脆弱で、そして生態系の最も基本的な要素を破壊するだけで国境を越えた波及効果をもたらしかねないということに気づきました。多くの研究からも分かるように、エイズ、エボラ出血熱、SARS、そして最も新しい新型コロナウイルス感染症や、その他多くの感染症は、動物や野生生物から発生しています。そのため、病気は政治問題であると同時に環境問題でもあるということを、国民はより意識するようになりました。きっと喜んでくれると思いますが、さらなる森林破壊や野生生物の生息地の喪失を防ぎ、河川への化学物質・毒物・ごみの投棄を

食い止め、畜産業の慣行を改善し、持続可能なエネルギー源へ移行するための法案が、可決され厳しく施行されています。また今では、使い捨てのビニール袋やカトラリーなどに代わる、生分解可能な環境に優しい製品が手に入るようになりました。プラスチック禁止令に強く反対していた私たちの地域でもリサイクルが盛んになり、環境に配慮している店や会社をひいきにするようになりました。ほとんどの用品が一度の使用で使い捨てである医療分野においては、交差反応や汚染を防ぐ必要があるため、まだプラスチックを廃止することは難しいですが、私は藻や植物などのプラスチック以外の資源を使った医療用品の製造を研究する国際共同研究に参加していて、この研究が期待できる結果を示しています。これには、きっとあなたも喜んでくれるでしょう。まだ道のりは長いけれど、持続的な変化を生むということは、短距離走ではなくマラソンのようなものなのです。今後の課題は、今私がいる地域のようなへき地に住む人々を含む全ての人に、これらの発展が行き渡るようにすることです。今のところは、諦めずにランチには再利用可能なカトラリーを持参し、友だちにも同じことをするよう働きかけてください。あなたは気づいていないかもしれないけれど、これらのささやかな活動が世代を超えた波及効果を生み、新たな感染症の流行を防ぐことができます。医師、そして提唱者として、将来の患者や環境に最善のケアを提供できるよう、しっかりと準備しておいてくださいね。これから道のりはさらに厳しくなりますが、いつも真実、情熱、そしてアドボカシーの心に従い、なぜそれを始めたのかを忘れないでください。理由を見失わなければ道を見失うことはありません。では、その日まで。

愛を込めて

33歳のクリシャより